

様式第 3 号(第 9 条関係)

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	みよし悠学カレッジ推進会議		
開催日時	令和 5 (2023) 年 7 月 2 7 日 (木) 午後 2 時から午後 3 時まで		
開催場所	図書館学習交流プラザ サンライズ 多目的室		
出席者	【委員】 宮嶋總三郎委員、吉岡俊明委員、 佐野鎮代委員、青木美代子委員、 佐々木憲夫委員 【事務局】 二子石課長、林副主幹、河合主事		
次回開催予定日	令和 6 (2024) 年 2 月		
問合せ先	教育部生涯学習推進課 河合 電 話 0561-34-3111 (直通) メー ル gakushu@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	・議事録全文 ・議事録要約	要約した理由	
審議経過	「別紙のとおり」		

典 礼	只今から令和５年度第１回みよし悠学カレッジ推進会議を開催いたします。始めに礼の交換をお願いしたいと存じます。一同、ご起立ください。一同礼。ご着席ください。それでは、次第に基づき会議を進めさせていただきます。始めに、生涯学習推進課長の二子石からあいさつを申し上げます。
二子石課長	生涯学習推進課長の二子石と申します。本日はご多忙そして大変暑い中、第１回みよし悠学カレッジ推進会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。みよし悠学カレッジ推進会議は、みよし市生涯学習推進基本計画の中の基本理念であります、「学びあい ふれあい 人と人がつながる 生涯学習」そういったテーマをもちまして、今日は皆さん区長会の関係の方、大学の関係の方、受講生代表の方から幅広くご意見を聞かせていただきたいということでございまして、年２回開催をさせていただく会議でございます。 本日の議題といたしましては、４年度の講座の開催状況と５年度の事業の概要、第２回目につきましては、近隣の生涯学習の状況調査をさせていただいて、その報告をしていきたいと考えております。 本日の資料でもご説明をさせていただきますけれども、４年度までは、生涯学習環境の整ったこのサンライズの建物で、各種講座を開催しておりましたけれども、市民の皆様のご意見とかをいただきまして、たくさんの方が気軽に参加できるようにということで、生涯学習の拠点を増やしていきたいということで、本年度からおかよし交流センターで講座の開催を春夏講座から始めております。これから秋冬講座、新春講座、また、来年度に向けまして少しずつ回数を増やしていきたいと考えております。あと将来的な話でございますけれども、みよしの南の方に、みなよし交流センターの建設計画もございます。そちらの建物が完成しました暁には、おかよし交流センターと同じようにそちらでも講座を開催して、皆さんが生涯学習講座により身近に参加していただけるようなことを、検討していきたいというふうに考えております。本日はいろんなご意見を頂戴できますようお願いをさせていただきます。まして、挨拶に代えさせていただきます。
典 礼	本日は、第１回目の会議となりますので、資料３の名簿順に簡単に自己紹介をお願いします。宮嶋委員からよろしくをお願いします。 （自己紹介内容に個人情報が含まれるため省略）
典 礼	それでは、次第の３に移ります。資料４の「みよし悠学カレッジ推進会議に関する要綱」をご覧ください。要綱第４条に「推進会議の参加者は、その互選により推進会議を進行する座長を定め

	ることができる。」となっております。どなたか座長をお願いするにあたりご意見はございませんか。
佐野委員	事務局に一任
典礼	事務局に一任という声をいただきましたので、僭越ながら事務局から案を出させていただきます。座長には、区長会の代表であります「宮嶋委員」にお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。
全委員	異議なし
典礼	ありがとうございます。ご異議もないようですので、事務局案のとおりとさせていただきます。 それでは、議事に入りたいと思います。議事の進行は、座長にお願いすることとしますので、宮嶋委員に議事の進行をお願いいたします。恐れ入りますが、正面の席へご移動ください。
座長	座長として、議事進行を努めさせていただきます。議事が円滑に進むよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。本日の議題は、（１）令和４（２０２２）年度事業の開催報告、（２）令和５（２０２３）年度事業の計画概要となっております。始めに、議題（１）の「令和４（２０２２）年度事業の開催報告」についての説明を事務局お願いします。
事務局	それではお手元の資料１に基づき、令和４年度生涯学習講座の状況についてご説明させていただきます。資料の左側は、各期ごとと全体の講座数、定員、申込者数、受講者数及び延べ受講者の状況です。この表は、３月に開催しました第２回の推進会議で報告しておりますが、その時はまだ講座が開催中で延べ受講者の報告ができませんでしたので、今回追加して、再度、報告させていただきます。講座数、受講者数、延べ受講者は、前年と比較しまして、１４０講座→１５１講座、１，３０５人→１，４３６人、５１７９人→５７３８人と、概ね１割程増加しております。 左側下段の「新型コロナウイルス感染拡大に伴う講座開催・受講者の状況」をご覧ください。令和元年度は、１８５講座２，３３４人の受講者であったものの、令和２年度は、春夏講座の中止、不要不急の外出自粛等により講座数、受講者数が大きく落ち込みました。令和３年度以降は、感染対策を徹底しながら、講座回数の抑制、受講者数の制限を行いながら、少しずつ講座数の回復に努めてまいりました。５類に移行以後の春夏講座からは、コロナ以前の条件で講座を開催しており本年度は１６５講座の開催を計画しております。

	次に、資料右側の上段の年代別申込者数をご覧ください。50代が30.7%と一番多く、50歳以上が全体の8割を占めている状況です。次に、資料右側の下段の行政区・地区別申込者数をご覧ください。行政区ごとの申込者数は表のとおりです。 一番下の表の地区ごとの申込者数をご覧くださいと、おかよし地区が46.1%とサンライズがあるなかよし地区の34.1%よりも12ポイント多く、全体の約半分を占めている状況にあります。説明は以上のとおりです。よろしくお願いします。
座長	それでは質疑に入ります。ご意見ご質問等がありましたら挙手をお願いします。
佐々木委員	全部説明していただいてからがいいかもしれませんが人気の高い講座とかですね、そういうところでやっぱり競争率が少し早くいただいたこの資料を見ますとですね、やはり情報通信とかで、2倍から3倍で応募者数が大変多いのもあるし生活創造では、手相だとか料理だとか、そういうところは人気がありましてですね。今年度そういうところをどんなふうな対応で進めていただけるかなというようなことを、また後半で含めてですね、お願いしたいなと思ってます。
佐野委員	おかよし地区が46%っていうところで見ると、やはりおかよし交流センターで、課長さんが力を入れていくと言われたことはとてもいいことだなと思うんですよね。これからもどんどん皆さんが集まっていたらいいなと、私初めて今回あそこで講師をやらせていただいて思いました。そういうことで、おかよし交流センターがうまく使える方法を何か考えていただけたらいいかなと思っております。 おかよし交流センターでも講座が開催されていることは、自治区で市民の方には周知されているんでしょうか。
座長	こういうのは全部に入口に置いてありますが、興味がないとやっぱり参加できないと思うんです。こういうチラシをせっかくいっぱい作ってもらって本当に市民がどこまで知っているのかなということだと思うんです。知ってれば行きたかったなとかそういうものがあるんですけども、PRの仕方をどうやったらいいかなっていうものややっぱり自分がやったらどうなのかなっていう自分に置き換えてやらないと、ただ教えればいいとかだけじゃないんじゃないかなと思うんです。
佐々木委員	前回会議で、区長さんが区の方でも一生懸命展開しますという話をされて、たまたま児童館を訪れたらパンフレットが置いてあってですね、児童館に来られる人はもう玄関入るとわかるような

	形で展開するようなことをうちの区長さんがやくださってます。
座長	私の旭ですけれども、市からのものは全部貼ったりしています。大きなやっぱり交流館で人が集まるところにもっともって何かをPRした方がいいかなとは思いますが。行政区も力を入れてやらないかなということは正直なところだと思いますので、区長会のおきもって使ってくださいと言っておきたいと思っています。
佐野委員	そうですね私は福谷なんですけれども、区長会でそういうことをしていただくと私も老人憩の家もいきますし、区民の会館にもいきますけれども、やっぱり片隅に貼ってあるとわかってるけれども、皆さんがやっぱり興味がない方はあんまり見ないんですよ。広報みよしに載ってるよって私も話したことがあるんですが、知らなかったっていう方もいらっしゃると思います。
青木委員	私もパソコンが出始めた頃に生涯学習講座に習いに行ったことがあります、今は忙しくて行ってないんですが、こんなにやってるとは知りませんでした。
佐野委員	どれだけ素晴らしい先生方がいるかということを実際にうちよって知れ渡るといいですね。
座長	興味がないと行かないということと、今は100歳時代ですからね、皆さん表に出ることもいっぱいあるよってことで出ていただけるようなこともしないといけないと思います。作る側と見る側のまるっきりこの反対です、やっぱり作る側は皆さんに何とか伝えておいていただいて思っ一応作るんですが、けれどもなかなか見てもらえない、市としてもいっぱい伝えてるんですが、行政区としても。住民がどこまで自分たちの方へ向いてくれるかなということを、やっぱりせつかくでしたらこういいうときに何かいい案があれば、伝え方って一番難しいと思います。
事務局	今後また事務局の方でいろいろ検討しながらですね、改めてPRの方法とかを考えていきたいなと思いますので、よろしくお願いします。
座長	次に、議題（2）の「令和5（2023）年度事業の計画概要」について事務局からの説明をお願いします。
事務局	それではお手元の資料2に基づき令和5年度のみよし悠学カレッジ事業の概要についてご説明させていただきます。昨年3月改定の「第3次みよし市生涯学習推進基本計画」の基本理念である『学びあい ふれあい 支えあい 人と人がつながる 生涯学

	習』に基づき、講座開催に取り組みます。1 基本方針にありますように市民のニーズに応えた講座を開催するにあたっては、 (1) のとおり引き続き「公開」「生活創造」「国際理解」「情報・通信」の各分野で実施します。また、(2) (3) のとおり生涯学習になじみのない人でも気軽に参加できるよう入門から初級、中級、応用など習経験に応じた講座内容を企画します。 (3) (4) のとおり各種優先講座の開催、社会の変化に合わせた講座の企画に取り組むとともに、ホームページや広報みよしを活用した広報に努めます。(6) のとおり子育て中の人々が講座に参加できる環境を整えるため、託児の充実に努めます。2 講座開催事業につきましては、秋冬講座の内容を中心に記載しております。本年度の春夏講座から市民の方々が身近な場所で気軽に参加していただけるよう、おかよし交流センターでも講座を実施しており、春夏講座は愛知教育大学との連携公開講座始めとする5講座、秋冬講座は4講座を開催いたします。秋冬講座の内容については、以下のとおりですので、ご一読ください。なお、秋冬講座については64講座で受講生をこの23日まで募集したところです。 次に3の生涯学習サービス事業については、引き続き、「調査研究」「情報提供」「支援」の3事業を行っていきます。特に、前回の会議において、近隣自治体の生涯学習講座の状況を調査してみてもどうかとの意見をいただきましたので、この9月に実施し、第2回の会議で報告をさせていただきたいと考えております。 最後に、おかよし交流センターにおける生涯学習講座の充実についてですが、令和2年度以降、おかよし地区の講座申込者数は概ね全体の5割弱をしめており、今後もこの状況は続くものと思われまます。夏講座受講生のアンケートでは、「参加が便利(近い、駐車場が広い)なおかよし交流センターでの開催を増やしてほしい。」、「自宅から近かったので参加できた。おかよし交流センターでの開催を増やしてほしい。」、「サンライズの講座はバスを利用しないといけない。おかよしは近くて気軽に参加できる。」などの意見をいただいております。おかよし地区の市民の受講申し込みが全体の約5割を占める中、受講者は自宅から近い場所であると気軽に参加できると考えていることから、今後、おかよし交流センターでの講座を充実させることで、おかよし地区の市民の方々の生涯学習講座への関心が更に高まり、受講者数の増加が期待できると考えています。説明は以上のとおりです。よろしくお願いいたします。 大学さんとの連携公開講座でしてですね、今年はこの時点でもうドイツの教育事情っていうのは終わったわけですね。 昨年ですね、22年度の方の報告書の詳細を送っていただい
佐々木委員	

事務局	たものを見ますとですね、やはり、22 年度もですね、2 点ありまして、ミクロ生物の世界を覗いてみようということと、新史料から見る秦の統一時代という。テーマが大学さんとの連携の講座があつてですね、残念ながら定員に対してですね、申し込みの方はミクロ生物のところは 30 名の定員で 14 名、それから史料から見る秦の統一時代となかなか専門的な講座かもしれませんが、40 名に対して 10 名と、いうことですね、なかなかこれはもっとこれもアピールをしたら、たくさん参加されるんじゃないかなというふうに思っていますね。 特に 8 月の 28 日の日曜日に行われたような、こういう生物の世界なんていうところは、中学生とか高校生とかそういう子供さんとかも参加ができるといいななんていうふうにも思いますし、せっかくの大変レベルが高い話を聞かせていただくのかもしれませんが、大学さんとの連携講座というものは、もっとたくさんの方がですね、参加してくださるといいなと思いますし、もう一つは東海学園大学さんとの連携というのは今後、ご検討されるような余地はあるでしょうか。その二つですけども、何か大学連携講座の位置づけとそれからアピール今後の展開を聞かせていただければと思うんですが。 まず、佐々木委員からご質問のありました人気のある講座についてですが、この秋冬講座の応募状況ですが、確かに先ほどおっしゃったような手相とか目新しいものとかは非常に人気が高い状況にあります。スマホはやはり関心が高く倍率が高くなる一方で、Windows とか基礎的なものについては、大変重要ということで参加人数があまり伸びなくても実施させていただいております。そういう中で、秋冬で非常に人気があったので、新春でやってみたら受講生が少ない、そのあたりがその時期的なものとか受講生の方の事情もあって、人気があるからそれをやってみると伸びないということもありまして、試行錯誤しながらですね、やっている最中です。パソコンの関係につきましては、やっぱり基礎の講座は全てのパソコンの入口ですので、これをなくしてしまうとなかなかその後、次の段階に行けないので引き続きこれは P R しながらやっていきたいなと思っております。 それから、大学連携につきましては現在は愛知教育大学と大学連携、これは愛知教育大学が、みよし市に限らず三河地区の多くの市町村と大学連携講座をやっており、大学の取組みの中でみよし市も連携講座をやらさせていただいています。 先ほど佐々木委員がおっしゃったように定員に対する出席者数があまり芳しくないですが、ただ出た方々からはこんなこと普通学べないので大変面白かったという意見が多くて、私も昨年度担当しましてこれは本当にいい内容だなと思って何とか P R を工夫
-----	--

	して多くの方に出ていただきたいと思って取り組んでおりまして、今年も課長の指示でおかよし地区の小学校へチラシを配ったりとか、かなり力を入れてPRをさせていただきました、ドイツの教育事情につきましては定員15名を超える応募がありまして、抽選という形で実施をさせていただきました。ただ8月26日の地層、岩石、化石から探る郷土の大地の成り立ちと特徴につきましては、約5割、20名ほどの参加予定ということです。な、こういうことが好きな方も限られていることもありまして興味ある方は他の市町村や県外からもぜひ参加したいという方があります。大学連携講座の専門性が高く、普通学べないことを優しく教えていただけることで大変いい講座という佐々木委員のおっしゃるとおり私も思っておりますので、参加したいという方があったらまだ受け付けたいと思っておりますので、よろしくお願いしたい。なお、連携公開講座は愛知教育大学の地域連携という大きな枠組みの中でやっております、また東海学園大学のとは具体的なお話はさせていただいております。
吉岡委員	生涯学習の中のこういったプログラムのところではなく大学独自の中でやったりとか、また市役所の皆様に協力いただきながらスポーツクラブ作ってみたりとか、そういった形の活動をちょっとしてるんですけども、こういう中のところでもこれからはいろいろターゲットを含めた形でいろいろできたらなというのはちょっと考えております。 うちの三好キャンパスは、健康とスポーツとか、健康増進というところがひとつのキーワードになると思いますので、そういったところでちょっとお話をさせていただきながら、そういった講座が持てればというところがございます。その生涯学習の一つのコマを頂戴しているところではなく、学校だけでオリジナルでやって告知をしたりとかするようなイベントもあるんですけども、それ以外にまたこういった連携的な形で動けばいいかなと思っておりますので、また打ち合わせをさせていただければと思います。
座長	おかよし交流センターは参加が多いとか、違いがありますか。
事務局	おかよし交流センターの2講座と公開講座をやった中で、統計的な話でさせていただくと、おかよしで初めて参加していただいた方が全体の約25%を、新たに参加していただける方が増えたという状況でございます。
佐々木委員	大学さんとの連携講座のアピールですけども、英語だと先生の写真を付けてやったりしてくださってるんですけど、大学連携の方も何かこれと同じぐらいのをアピールしておられたんですか。

事務局	写真とかついたようなものとより興味を持ってくださるのではないかと思います。 この案内冊子で大学連携が最初に出てくるようにしております、なるべく見ていただけるようにしておりますけれども、ただちょっと先生が恥ずかしがり屋の方が多いのかもしれませんが、写真を提供いただける方が少なく大学から提供いただける情報でもって作成して、一番最初に掲載したりしてなるべく見ていただけるように工夫をさせていただいております。
座長	令和5年度の計画の方でいろいろと話が出て、私的にはやっぱり最後はねやっぱりここまで来たらどうPRして皆さんに、住民からいっぱい参加してもらうかということが最後の結論だと思います。 やっぱり興味を持ってもらうということが大事なんですけども、興味の中に自分がどこの部分の中に入るのかなということが一番だと思うんですけども。そのやり方がどうやったらいいかなということをまたみんなで考えながらやらないといかんかなと思います。
佐野委員	青木さんがいらっしゃるから老人クラブの方でもそういう話は全然ないと思うんです。スポーツのことばかりだと思いますが、代表者の方がお集まりになった時に、こういうような講座があるからスポーツだけじゃなくてこういう講座ある、生涯学習って本当に楽しむということを伝えていただければと。
青木委員	月に1回役員会ってというのがあって次の週に理事会があるので、そういうところでPRができたと思います。講座もこのように一覧表になっていると見やすいですね。広報だと見にくいですが、こうなっているとみやすいですね。こんなに生涯学習をやっているとはわたしも思っていたんです。
事務局	参考に申し上げますと、A3両面のチラシは、3月、7月、11月の広報の中に折込みチラシで入れさせていただいておりますので、またぜひそのときご覧いただければと思います。
佐々木委員	基本方針のところ、多様な価値観や社会の変化に対応した講座の開催に取り組みますと改めてご説明いただいたわけですが、やはり世の中の動きがですね、大変速い動きでIT関係スマホとかそういうものでいっぱいいろんなことができるようになってきてですね、特に私たち高齢のものはですね、そういうパソコン、スマホ、そういうような関係のですね、知識をつけると、非常に楽になると嬉しいこといっぱい、ただセキュリティとかの

事務局	リスクを対応した上でやる必要があるんですけども、そういうことをですね、大変トライでやっていただいているものですからね、ありがたいなというふうに思いましてですね、ぜひこれからもですねこの情報関係の講座も世の中の動きを捉えて進めていって欲しいなというふうに思います。そういう意味でですね、キャッシュレスのスマホ決済は大変人気があって22年度のこれを見ると、大体2倍から3倍ぐらいの競争で2回講座を開いていただいているのが、スマートキャッシュレス講座から2回去年もあったんですけど、この秋は1回にまたなってしまうんですね。 スマホとかLINEとかですね、かんたんスマホとかいろいろそういうのを増やしてきたところです。今回はあまり倍率が高くなって、なぜかというところ読めなくてですね。今回少ないから次も少なくいうと次回例えば新春でやってみると倍率が高いとかですね、ちょっとこのあたりがね読めないところがありまして、今おっしゃったように、社会の情勢を見ながらちょっと少し辛抱強く講座を企画して、もう少し長い目で受講生の動向を見てから今後の企画をちょっと考えていかないと考えております。
座長	以上で、本日の議題を終了いたしました。長時間ご意見等をいただき、ありがとうございました。事務局へ進行をお返しします。
二子石課長	貴重なご意見をいただきありがとうございました。なお、次回の推進会議につきましては、1月下旬以降に予定をしております。時期がまいりましたら委員の皆様のご都合をお聞きし、開催日時を調整させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
典礼	最後に礼の交換をお願いいたします。一同ご起立ください。一同礼。本日はありがとうございました